

30年度から政策が変わり、一般会計からの赤字補填をゼロにするとの目標を立てて、保険税の6年連続値上げが始まった。毎年値上げ(市民負担の増大)しながら、市は毎年貯金を増やしている。なぜこんなことが行われるのか??

歳入 (単位:百万円)	30予算	30決算	31予算	31決算	2予算	2決算	3予算	9月補正
国民健康保険税収入	1,693	1,722	1,736	1,777	1,806	1,814	1,703	
国庫支出金(国から来る)	0	0	0	1	0	30	0	
都支出金(東京都から)	6,281	5,936	5,987	5,874	5,904	5,579	5,820	
特定健診負担金等	39	40	34	43	66	69	64	
保険給付費等交付金	6,243	5,896	5,953	5,839	5,838	5,509	5,756	
一般会計繰入金①市の負担金	482	495	511	527	510	525	528	
一般会計繰入金②その他繰入金	586	586	504	505	377	377	280	
基金繰入金(貯金取崩)	0	0	0	0	0	0	167	
繰越金(前年度黒字額を計上)	1	394	0	221	0	265	0	270
諸収入(延滞金、返納金、雑入)	31	33	31	33	31	39	29	
歳入合計	9,075	9,167	8,769	8,938	8,628	8,628	8,529	8,802

検証 コメント

- ◎ 保険税収は、毎年、予算額を少なめに見込んでいる。
- ◎ 3予算は、5.18%値上げするにも拘らず、税収が減ると見込んでいる。コロナ禍により市民の所得が減り、税収が減るとのこと。市民の所得は減るけれども、市の収入が減ると困るので、保険税は値上げするとの説明です。
- ◎ 一般会計繰入金②は、6年で赤字補填を0にするとの方針のもと、計画通り削減している。
- ◎ 3予算の基金(貯金)取り崩しの理由は、コロナ禍による、所得の減少(=保険税収の減少)の補填、等のためとの説明。結果、10%以上の値上げを5%台の値上げに抑制できたとの説明。

参考(一人当たり数値で検証)	30予算	30決算	31予算	31決算	2予算	2決算	3予算
国保加入者数 合計 (人)	19,087	19,587	18,523	18,818	18,081	18,472	18,050
一人当たり国保税収入 (千円)	88.7	87.9	93.7	94.5	99.9	98.2	94.4
一人当たり保険給付費 (千円)	328.3	295.1	322.0	302.6	323.1	290.4	317.6

- 一人当たりで検証してみると、
- ◎ 一人当たり保険税収は、堅めに見込んでいた。予算と決算実績の差は大きくない。3予算は、とても低めに見込んでいる。
- ◎ 一人当たり保険給付費は、毎年過大な見込みだったことが分る。予算と決算実績の差が大きすぎる。3予算の数値も、過去の実績値から見て、過大と思われる。

歳出 (単位:百万円)	30予算	30決算	31予算	31決算	2予算	2決算	3予算	9月補正
総務費(人件費等)	127	131	142	132	143	128	149	
保険給付費	6,267	5,779	5,964	5,694	5,842	5,364	5,733	5,737
国保事業費納付金(都へ納付)	2,509	2,509	2,487	2,487	2,463	2,463	2,468	
共同事業拠出金(都国保連合会へ)	0	0	0	0	0	0	0	
保険事業費(特定検診その他)	153	121	160	119	162	111	160	
諸支出金	13	406	14	242	15	292	15	286
償還金・利子および還付金	0	153	14	48	15	83	15	
基金費(貯金増額)	0	0	0	169	0	165	0	241
一般会計繰出金(一般会計へ戻)	0	254	0	25	0	44	0	29
前年度繰上充用金・予備費	5	0	3	0	3	0	3	
歳出合計	9,075	8,947	8,769	8,673	8,628	8,358	8,529	8,802
(歳入、歳出 収支差額実績)	0	221	0	265	0	270	0	
国保基金残高				169		334	167	408

- ◎ 保険給付費
予算と決算実績の差が大き過ぎる。保険給付費を過大に見込んで、保険税値上げの根拠としていたことになる。3予算も、上記一人当たり数値で見た通り過大と思われる。
- ◎ 2年度決算も、大幅黒字(270117千円)となった。
- ◎ 基金(貯金)残高は、2年度末現在、334266千円である。3年度予算で167376千円取崩し、残額166890千円になるはずのところ、2年度決算黒字を受けた3年9月補正で、240842千円貯金を増額、差引合計**407732千円に貯金が増えた**。3年度決算も黒字を計上する可能性が大きい。貯金はさらに増えるに違いない。

- ◎ **一般会計からの赤字補填は、計画通り削減している。一方で、貯金を増やしている。(3年9月現在、4億円以上。)** 値上げは、必要だったのか??? 上記で見たとおり、予算上、毎年、経費(保険給付費)を過大に計上して、保険税の連続大幅値上げの根拠としてきたことになる。決算実績では、当然、大きな黒字となり、毎翌年、貯金をすることとなった。 **値上げは貯金のために行われたのか???**
- ◎ コロナ禍で、市民の所得が減っている時に、市の収入が減るのは困るからと、市民負担(保険税)値上げとは、??。多くの市が値上げを見送っている。
- ◎ 30年度以降、保険給付費を過大に見込んで保険税の大幅値上げを繰り返し、余剰金を基金として貯めてきた。コロナ禍において、市民の所得が減少し、保険税収が減少する、その穴埋めに、過去に過大値上げして貯めた貯金(基金)を使うのは筋が通らない。コロナ禍による所得減少による税収減は、国、都、市全体で対応するべきもので、被保険者のみの負担で解決すべき事柄ではない。現在ある貯金は、保険税の減額にこそ充てられるべきでは???. 取り過ぎていたのですから、納税者に返還するべきでは???